

「夏がくれば思い出す はらかな尾瀬遠い空」で始まる「夏の思い出」(作詞；江間章子、作曲；中田喜直)。豊かな緑の山々に囲まれ、清らかな水をたたえている尾瀬の湿原に咲く水芭蕉(みずばしょう)の美しさ(右写真)。そこを吹き抜ける涼しげな風をも感じるような素敵な歌曲です。1947年(第二次世界大戦後すぐ)に「夢と希望のある歌をお願いします」と依頼された江間章子さんは、ご自身が行ったことのある尾瀬のすずやかな風景がすっと思ひ浮かんだそうです。戦後から少しずつ立ち直りはじめた頃、穏やかで平和な日々がどれほど大切なものかを日本中が感じていたと思います。そんなときに、聞こえてきたこの歌にどれほどいやされ、どれほどたくさんの優しさに包まれたことでしょうか。いまだに



続いているウクライナ侵攻をはじめとした紛争の数々。一日も早く、だれもが「幸せだなあ」と感じ、いつでもだれとでも「夢と希望」を語り合える世界にしたいです。そのために、私たちは自分が幸せだと感じると同時に自分に関わるすべての人が幸せだと感じられるよう、自分にできることを一つ一つ心を込めて積み重ねていきましょう。自分を大切に、そして自分に関わるすべての人を大切にするこころこそが「幸せ」だと実感することにつながると思います。ちなみに、今学校の昇降口前に美しいくちなしの花(左写真)が咲いています。くちなしの花言葉は「とても幸せ」「喜びを運ぶ」。甘いいい香りに「幸せだな」と感じます。

「魅せろ！チーム太東の底力」今年も中体連やコンクールでの大活躍を祈る！



6月5日(月)に中体連大会やコンクール、コンテストで太宰府東中の活躍を学校あげて応援するために選手激励会を行いました。各部活動が掲げる目標や大会やコンクール等に向けての決意を力強く発表する姿から「勢い」を感じました。また、選手激励会の締めくくりには、全校生徒が肩を組みながら大きな二重の円になり、互いにエールを送り合う姿が感動的でした。体育会スローガン成功に向けて掛け合った「みんなで」と掛け合った言葉そのものが表れていて「チーム太東」をみんなで感じた瞬間でした。

そのような中、6月10日(土)に小郡市陸上競技場での陸上大会を皮切りに中体連がスタートしました。陸上部の選手たちは、自己ベストはもちろん大会新記録を打ち出すなど大活躍を果たしました。6月17日(土)には野球部、サッカー部、女子ソフトテニス部の大会も始まり、次の試合につながってますます期待が高まっています。校内には選手の活躍を知らせる「週刊太東スポーツ」(写真)が昇降口に大きく掲示され、応援ムードが高まっています。



さらなるコミュニティ・スクールの充実を図ります！

新型コロナウイルスが5類に移行し、これまでの制限がずいぶん緩和されるようになりました。それに伴い学校での教育活動もこれまでの形にとらわれることなく進化させたいです。また、地域とつながりたいと思っても十分にできなかったことを少しでも進め、今こそコミュニティ・スクールをもっと充実させたいと考えています。それらを含めた本年度の学校経営について、6月7日(水)に実施した本年度第1回学校運営協議会で説明し、委員の皆様へ承認をいただいています。「笑顔が力になり、成長につながる！笑顔あふれる学校こそが伸び続ける！～Well-beingの実現を目指す学校に！」というスローガンのもと、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら、共に力を合わせることを確認することができました。

